

細江カトリック教会だより

10月

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

目に見える教会

今年の10月31日は宗教改革500周年記念日として、世界各地で記念行事が企画されています。しかし、日本ではカトリックだけでなく、プロテスタントの教会でも、それほど大きな関心と呼んでいません。もともと日本人はルネッサンスも宗教改革も経験せず、キリスト者は人口の1パーセントで、たくさんの諸宗教の中のごく少数派にすぎないからでしょう。初めから宗教多元主義を当然のこととしてしています。

「宗教多元主義」とは、たくさんの宗教が雑居していることに慣れている、という生活感覚のことです。キリストに出会って洗礼を受けた人にとって、それはいわば偶然のなりゆきであって、周りの人々が他の宗教もしくは無宗教であっても別にかまいません。会社の同僚からは、「キリスト教をやっているのか」と、まるで「茶道」とか「剣道」とか、趣味でやっているもののように考えられています。

しかし、「宗教多元主義」は個人主義の裏返しです。つまり、人はそれぞれ好きな道を選んで当然と思うから、自分は自分、人が何を信じようが信じまいが自分にはかかわりない、ということになりかねません。そして、それは教会という共同体への帰属意識が薄いことにつながります。イエス・キリストを信じることはすばらしい、キリストと出会ってよかったと思いつつも、教会に深くかかわることは避けたい。

あの教会の司祭は嫌いだとか、この教会のあのグループには加わりたくないとか、思ってしまいます。「ミサにいけば心の平安をもらうが、教会の行事はわずらわしい」と言う人も少なくありません。

確かに目に見える具体的な信仰共同体は、弱い人間の集まりです。しかし、教会はたとえ「しみやしわや、そのたぐいのもの」(エフェソ 5・27)をいっぱい抱えているとしても、主キリストがお選びになり、集めてくださった共同体なのです。この共同体がなければ、私たちはキリストと出会うことができなかつたでしょう。この共同体がなければ、救いへの道を最後まで歩むことができないでしょう。主イエスがおっしゃっています。「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない」(ヨハネ 15・4)。枝がぶどうの木につながっていることは、また枝同士も互いにつながっていることです。

宗教改革とそれに伴う教会の分裂を想起するとき、改めて目に見える教会を大切にしたいと思います。

百瀬 文晃 神父

*挿絵はルカス・クラナハ画
マルティン・ルター



地区だより VI

細江教会とわたしたち

本町地区

今から 50 数年前わたしたちは細江教会で出会いました。当時、教会では青年たちが「一月会」と称して話し合ったり、山歩きをしたりする集まりをしていました。この会の中からカトリックの教えについて聞きたいという声が上がります。若者の要望に応じて、公教要理を仲間として語ってくださったのが若き日の林神父様でした。

“主は皆さんと共に”という林神父様。“また司祭と共に”と応えるわたしたち。主と共にわたしたちも神父様の助っ人になりたいという思いでした。

当時 20 歳前後だったわたしたちは結婚、進学、転職と各々の道を歩み、細江教会と疎遠になることもありました。

しかし年を経て、子育てや親の世話も一段落し、仕事も定年。半世紀ぶりの「一月会」がささやかに始まります。

孫育てあり、家人の食事の世話ありと、ピクニックに行くようなまとまった時間はなかなかとれませんが、1 時半から 2 時の集いは楽しみです。聖書はどこへやらの雑談こそが年月にこしとられたエッセンスです。細江教会ありせばの時間に感謝の帰路となります。

柳沢 佳枝



テゼの祈り 9/8 (金)

一平和の尊さ・命の尊さ一

テゼの祈りは、歌を何度も繰り返して、祈って行く内に自分の中の思いと、神との対話を感じます。今回もふと！ミャンマーでの出来事を思いめぐらして、祈りをしました。

「今、ミャンマーではロヒンギヤの人々が排除され、バングラデシュの国

境で、40万人とも言われる避難民が逃げ惑っています。水もなく、食料もなく、小さな子どもたちの不安な目を見ているとキリストの平和を実現して欲しい」と祈りを捧げました。

林 妙子



避難訓練 9/10 (日)



*地震発生！
身を守って、揺れが収まったら、速やかに避難してください！

*車椅子に乗っての避難訓練は、少し怖かった？かな？



*いつ来るか分からない災害です。非常持ち出し袋を準備しましょう！（信徒代表より）

酒井神父の講話 9/10 (日)



～信仰とこころの病（心の問題）～

“私たちの大半の「こころ」は、正常（10%～20%）非正常（10%～20%）の間の60%～80%の間を行き来しながら生きている”とお話は始まりました。

私たちカトリック信者は、人と人との「あいだ」に神がおられることを信じ、この「あいだ」を築きながら、交わりいきているのです。教会に救いを求める人が来たら、特に「うつ」はうつるので、一人で対応するのではなく、何人かで話を聞き、分かち合い、共に祈ることが大切だと。

“苦しみは何かの失敗ではなく、まさに信仰と愛の証しを捧げる機会なのです。”（教皇ヨハネ・パウロ二世のメッセージより）

“私たちは、苦しんでいる人々を静かに支えるたびに、病者であるときと同じように日々の十字架を背負い、師であるイエスに従うのです。”（教皇フランシスコのメッセージより）

神さまは必ず癒してくれると信じて、生きていきたいと思いました。（M. N）

敬老の祝福 9/17（日）



*百瀬神父さまから祝福を受ける、喜寿以上の方々。雨にも負けず、風にも負けず、夏の暑さにも負けず丈夫な体を持ち・・・これからもお元気で。皆の宝物です。



*新地筋川地区が用意したお祝いの席で、山本シスターとトアンさん共演。オカリナの音色が響く・・・大活躍のお二人でした。

山口・島根地区大会 9/18（月・祝）

台風一過の好天に恵まれ、野外ステージで地区大会が始まりました。「躍動」するサビエル高校の合唱（曲目は天使のラブソング）や萩光塩学院の書道パフォーマンス（共生のテーマ）、幼稚園児の懸命な歌や劇。下関天使幼稚園も「良い羊飼い」に出演し、トアン神学生の羊飼いの呼びかけに園児が元気な声で「メー」と応え、迫力満点の狼役の伊福先生の名演技で、会場は笑いの渦と大きな拍手。またフィリピングループのすばらしいダンスで大会を盛り上げていました。

午後は広島教区の日として「ダイヤモンド・金・銀祝セレモニー」が行われ、アレックス神父さまと恩地神父さまが銀祝をお受けになり、これからも私たちをお導きいただきますようお祈りいたしました。

その後、白浜司教さま司式のミサが行われ、大会に参加された皆さま（約500名）と一緒に祈りすることができたことに感謝いたします。

祝賀会では、神父さまを囲んで談笑する輪があちらこちらにできて、とても楽しい一日となりました。大会の準備をしてくださいました方々に感謝いたすとともに、またお会いできる日を楽しみにしています。

竹中 和美

*天使幼稚園、迫力満点の劇の場面。



*銀祝をお迎えになったアレックス神父とご家族。



ディン司祭叙階式 9/23 (土)

—ただでうけたのだから、ただで
与えなさい。— (マタイ 10:8)

壮大なベトナム語の歌声と共に、秋の澄み渡った空の下、アロイジオ大西崇生さん、ヨセフ グエン・タン・ニャーさん、洗礼者ヨハネ ファン・デュック・ディンさんの司祭叙階式が始まりました。緊張した面持ちの三人でしたが、その中にも秘めた決意を感じました。

司祭への道のりは、苦しみや悩みも多かったでしょう。導いてくださった神父さまと、共に生活した兄弟とご両親の愛と祈りによって、ここまでたどり着いたのだと思います。一人ひとりの心を思い巡らせていました。

『見よ、兄弟がともに座っている。何という恵み、何という喜び…』と、この歌が湧きあがってきました。

「十字架を担って私について来なさい」と、イエスさまの招きに応じて、沖へ漕ぎだした三人の方々。これからがスタート！ですね。

新司祭のために、お祈りください。喜びの日、金木犀の香りがほのかに漂って・・・聖イグナチオ教会にて。

近藤 克美

「司祭叙階の儀」

*司祭から祝福を受ける三人の新司祭。



*岡田大司教さま、レンゾ管区長さまと。



*皆さまの前で、日本語で大西神父、ベトナム語でディン神父、英語でニャー神父が挨拶されました。

※「仕えるために」の冊子に新司祭の記事が掲載されていますので、ごらんください。



また、お会いしましょう！ 9/26



このところ桃崎病院に入院していたシスター山田ひさ様(三位一体の聖体宣教女会、91歳)が、9月26日に東京の本部に近い病院に移られました。シスターは著名な音楽家、山田耕作の息女で、1952年に暁の星幼稚園が創立されたときには子どもたちのためにピアノを弾いておられたそうです。

下関には最近の7年間と合わせて20年おられ、いろいろ教会のために尽くしてくださいました。これからは闘病生活での祈りと犠牲を教会のために捧げてくださるでしょう。神さまのお導きがありますように。

百瀬 文晃 神父

